

原 著

高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム

「教師力育成講座」の開発 — 学士課程教育の構築に向けて —

松原泰通・柳原正文・山根文男・小川潔・山崎光洋・笠原和彦・木多功彦
(岡山大学教育学部附属教育実践総合センター)

学級崩壊, 心の病に陥る教師, 増えるクレーマー等々の現実に, 学生たちも教員採用試験に合格してから, 教壇に立つことの責任の重さ, 自分の指導力の未熟さを痛感し, 押しつぶされそうになる。この状態を少しでも克服していくため教師力育成講座を開講することとした。

不易と流行の両方の観点から具体的な教育課題を現職の小・中学校長に提案してもらい, それらの課題解決を通して教師力を育成していくことを目指す。また, 他学部の教員志望学生や大学院生等にも参加を呼びかけ, 志を一にする学生同士が互いに切磋琢磨し, より幅広い確かな教師力の育成に資するものである。

キーワード: 教師力, 実践的な指導力, 現職校長, 学生同士の討論, 教育課題

I. はじめに

1. 学生の抱える不安

例年, 教員採用試験の合格発表が, 9月から11月にかけて全国的に行われる。学生は, 当然, 悲喜こもごもとなるのであるが, その後「本当に4月から教壇に立って子どもたちを指導できるのだろうか」と不安な精神状態に陥る。昨年の12月頃から, 次々と相談に訪れてきた学生から, 何が不安なのか話を聞いてみたところ,

- (1) クレーマー等の対応で退職していく教員が出てきている。
- (2) 学力テストの結果の開示の問題に, 現場が混乱した状態になっている。
- (3) 発達障害の子どもたちが増加しており, 対応できるかどうか不安である。
- (4) 不登校児の増加, いじめ, ネットいじめ, 虐待等の問題への対応はどうするのかわからない。
- (5) 安全・安心の問題, ケータイの問題等, 学校だけでは対応困難な新たな問題が出てきている。
- (6) 基本的な生活習慣のできていない子どもが増加している。
- (7) 教員評価, 学校評価, 外部評価, 自己評価等, 評価についてわからないことが多い。

などがあげられた。

2. 「教師力」育成のためのプログラム開発の必要性

そのような不安な学生を元気づけるために, 来室した学生に, 学校支援ボランティアとして現場に入り, 現場の本当の姿を自分の体全体で受け止め, そこから何をしていけばよいか考えようと指導した。

岡山市教育委員会のご協力により, ボランティア希望学生を, 卒業まで現場体験ができるように, 市内の小・中学校に受け入れていただいた。

当初は, 学級崩壊等による指導困難学級の支援に就くよう指導され, 困惑してしまう学生が多かったが, 徐々に周囲の落ち着いた学級の様子も観察でき, 教師としてすべきことが何かの見極めができるようになるまで成長してきた。3月の卒業の頃には, 眼の輝きも増し, 体全体から活力があふれてきており, 4月から新任教師として教壇に立つことができることを, 相互に確信した。

卒業生の以上のような状況から, 新年度には計画的に現場で教壇に立てる自信をつけていくこと, そのための「教師力」の育成をしていくことが急務であると考える。このプログラム開発に着手したのである。

II. 全体構想

1. 計画概要

本センターのプログラム開発に関する取り組みは, 平成21年度の本学学長裁量経費(教育研究プロジェクト等)事業として採択された。計画概要は以下の通りである。

「現在の日本においては、学校の教育力（「学校力」）を強化し、教師の力量（「教師力」）を強化することを通して、子どもたちの「人間力」の豊かな育成を図ることが求められている。義務教育の中心的な担い手は学校であり、とりわけ重要なのは教師である。教育は、教師と子どもたちとの人格的な触れ合いを通じて行われる営みである。人間は教育によってつくられると言われるが、その教育の成否は教師にかかっていると言っても過言ではない。（中教審答申より）」

今、教師の質と量を確保するための戦略は、大きな課題である。資質・能力を備えた教師を安定的に確保できるか否かは、これからの教育の鍵を握る重要な問題である。岡山大学教育学部附属教育実践総合センターとして、安定的・継続的に教員志望学生の質を高め、学校現場で戦力となる教員養成に取り組む必要がある。その方略として、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会と連携し、不易と流行の両方の観点から具体的な教育課題を取り上げ、それらの課題解決を通して教師力を育成していくことを目指す。また、他学部の教員志望学生や大学院生等にも参加を呼びかけ、志を一にする学生同士が互いに切磋琢磨し、より幅広い確かな教師力の育成に資するものである。

2. 期待される成果

本取り組みによって期待される成果を、次のように考えている。

教員採用試験に合格してからも、不安にかられ、現場に出ることに躊躇している学生も多く見られる。現場での教育に携わることに関心を感じ、心から仕事を愛し、即戦力として活躍できるように、高度な専門性と実践的な指導力を養成することを目的として本事業は実施される。故に、参加学生の主体的な取り組みによるその成果は、教師の力量を十分に身につけた教員志望学生を安定的・継続的に社会に送り出す一助となると考えられる。

- ①学校の実態やニーズを踏まえた資質・能力の育成
- ②教職に対する強い情熱（使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感）
- ③教育の専門家としての確かな力量（生徒指導力コミュニケーション力、授業力、理解力）
- ④総合的な人間力（豊かな人間性、社会性、対人関係能力などの人格的な資質）
- ⑤高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成や現職教師の再教育

3. 全体構想

以上を踏まえて、学生の「教師力」を育成していくための仮説及び全体構想（図1）を次のように考えた。

<仮説>

現場の校長先生から、直面している教育問題と現状、現在の取り組みの実態について基調提案をしていただき、学生同士でそのことを受け止め、討論を重ねると、課題の本質をつかむとともに、教師としてのあるべき姿、対応すべき教師のあり方について意識改革をしていくことができ、「教師力」の育成に役立つ。

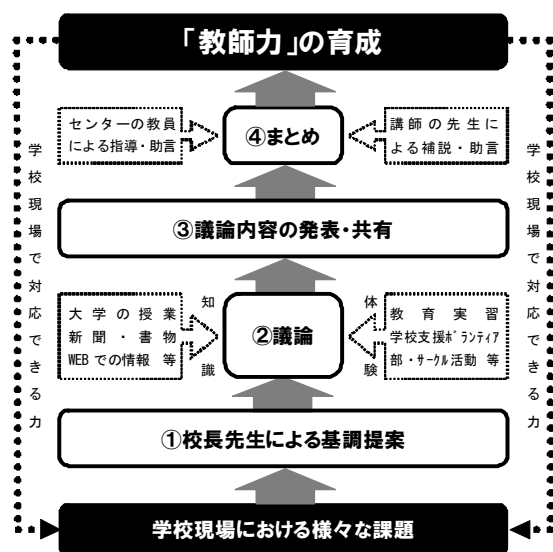


図1 全体構想

III. 方法

1. プロセス

「教師力を身につけよう！」の講座は、毎月1回、水曜日に行うこととした。これまでの講座は4年生の学生が中心であったため、講義等との関係から午前中に実施している。講座のタイムスケジュールは表1の通りである。

表1 講座のタイムスケジュール

時間	内容
9:30~9:40	開会（挨拶、講師紹介）
9:40~10:20	校長先生による基調提案（1）
10:20~10:30	座席移動・休憩
10:30~11:00	グループでの議論（2）
11:00~11:15	議論内容の発表・共有（3）
11:15~11:25	まとめ（4）
11:25~11:30	アンケート（感想）

（1）校長先生による基調提案

学生たちが議論するテーマについて、現職の校長による講演（基調提案）を依頼した。校長を講師とした理由は、以下の4点である。

- ①校長は教員経験が長く、学校現場における様々な課題に精通しており、その対応についてもよく知っている。
- ②学生は、教育実習等で教諭と接することはあっても、校長と接する機会は少ない。校長から教育に対する信念や学校経営といった立場からの意見を聞くことができる貴重な機会となる。
- ③授業準備・担任業務等で忙しい教諭よりは、校長の方が動きやすい（依頼しやすい）。
- ④失敗した事例等について、教職経験の長い校長であれば「今だから話せる」ことがある。

依頼する校長については、その回のテーマが決まった後、担当のセンター教員が依頼状を持参し、打ち合わせを行った。

(2) グループでの議論

学生たちは6人前後のグループで議論を行う。7月までの講座は、当該年度の教員採用試験受験予定者を対象としていたため、集団面接試験に準じる形で行った。受講生は受験予定校種別（小学校、中学校、養護教諭等）に分かれて、グループの中で司会と発表者を決めて与えられたテーマに沿って議論を行った。

(3) 議論内容の発表・共有

約30分の議論の後、グループ内で出た意見についての発表を行い、議論内容の共有を図った。限られた時間の中で議論内容を要約し発表を行うことは、学生たちにとって大切なトレーニングであると考え、発表時間は約1分間とした。

(4) まとめ

(1)～(3)の内容について、センターの教員による指導・助言及び講師による補説・助言という形でまとめを行った。また本時の感想と今後の講座で取り上げてもらいたいテーマ等について回答するアンケート調査を行った。

2. 各回の主な内容

(1) 第1回：5月27日（水）実施

第1回目は「子どもたちの生活とケータイの問題」をテーマに、岡山市内の中学校の校長先生から基調提案をしていただいた。携帯電話の問題だけでなく、「コミュニティスクール」や「協同学習」など、今まさに学校現場で進んでいる新しい動きについても、貴重な問題提起があった。

<当日配付資料の概要>

- 1. はじめに
 - 知っていますか
 - ①コミュニティスクール

- ②シニアスクール
- ③全教科・全教員による協同学習
- ④土曜寺子屋
- ⑤保・幼・小・中の連携から一貫教育

- 2. ケータイの現状
- 3. 本校生徒の生活とケータイ
- 4. 子どもの育ちとケータイ
- 5. おわりに

(2) 第2回：6月24日（水）実施

第2回目は「発達障害など課題を抱えた子どもとどうかかわるか」をテーマに、岡山市内の小学校の校長先生から基調提案をしていただいた。特に「子ども一人一人の課題に応じた支援」や「集団づくり」については、校長自身の担任としての経験を交えながら熱く話していただいたため、学生が保護者との連携等についてより深く考える良い機会となった。

<当日配付資料の概要>

- 1. 特殊教育から特別支援教育に
- 2. 岡山市の特別支援教育の現状
 - 障害のある子どもの数
 - 特別支援教育補助員の配置
- 3. 特別支援教育の推進
 - 子ども一人一人の課題に応じた支援
 - 集団づくり

(3) 第3回：7月8日（水）実施

第3回目は「いじめ・不登校の問題をどう考えるか」をテーマに、岡山市内の中学校の校長先生から基調提案をしていただいた。様々な資料に基づいて話をされ、どちらの問題においても、「当事者の気持ちになって考えること」が大切であると強調されていた。

<当日配付資料の概要>

- 1. いじめ
 - (1) いじめの状況
 - (2) いじめの定義（文部科学省）
 - (3) いじめの構造（社会学の立場で分析）
 - (4) 解決に向けて
 - (5) 新しいいじめ＝「ネット上のいじめ」
 - (6) いじめを生まない・許さない環境づくり
 - ・・・誰でも被害者になりうるという認識
- 2. 不登校
 - (1) 不登校の実態
 - (2) 文部科学省による定義
 - (3) 不登校になったきっかけ
 - (4) 不登校からの復帰に向けて

IV. 結果

1. 参加者の状況

参加者の全体状況は表2の通りである。回を追う毎に希望者が増えたため、7月度は予定していた会場を変更して行った。6月度は中学校選択の学生が副実習にあたっており、希望者が若干少なくなっている。

本講座の特徴の1つとして一度参加した学生が次回以降も連続して参加していることをあげることができる(図2)。5月度講座に参加した学生36名のうち21名が3回連続で参加し、6名が6月度または7月度の講座に参加している。(リピート率:75.0%)6月度講座に参加した学生68名のうち、3回連続で参加した21名を除く47名中32名が7月度の講座に参加している。(リピート率:68.1%)

男女別の割合は図3の通りである。3回とも女子学生の参加率が高く、約77%が女子学生であった。なお教育学部全体での男女比は、男子学生が34.4%、女子学生が65.6%である。

2. 講座内容について

(1) 基調提案について

校長先生による基調提案について「どのように感じましたか」という問に対する回答の結果を示したものが図4である。参加した全学生が「①とても考えさせられた」「②どちらかといえば考えさせられた」と回答した。

(2) グループでの議論について

「グループでの話し合いは、活発に行われましたか」という問に対する回答の結果を示したものが図5である。参加学生のほぼ全員が「①とても活発に行われた」「②どちらかといえば活発に行われた」と回答した。

(3) まとめについて

「まとめについて、どのように感じましたか」という問に対する回答の結果を示したものが図6である。参加学生のほぼ全員が「①とても考えさせられた」「②どちらかといえば考えさせられた」と回答した。

(4) 講座全体について

「今回の講座で考えたことは、あなたが教師を目指す上で役に立つと思いますか」という問に対する回答の結果を示したものが図7である。参加した全学生が「①とても役に立つと思う」「②どちらかといえば役に立つと思う」と回答した。(無回答を除く)

「次の講座も参加したいと思いますか」という問に対する回答を示したものが図8である。参加学生のほぼ全員が「①参加したい」「②どちらかといえば参加したい」と回答した。

(5) 学生の感想(自由記述)

アンケートには自由記述の欄を設けており、学生たちから様々な感想が寄せられた。ほとんどが講座に対する好意的な感想であり、学生たちの満足度の高さと教職に対する意欲の高まりを感じることができた。

「教職に対する意欲がわいた」

- 「授業が勝負」「一人一人の学習権を保障」「聞く力」どのキーワードも自分には不足している部分だったのでとても参考になりました。先生の話の聞いているととってもたくさんのことを勉強したいなあと思われました。大学に入って一番学習意欲に溢れていると思います。【5月度】
- 現場の先生のお話を聞いてとても考えさせられ、これからの意欲も高まりました。授業を大切にすること、福祉との連携、声なき声を受けとめる傾聴など、心に残ることがたくさんありました。ありがとうございます。【5月度】
- 普段何気なく使用していたケータイが、今教育現場で大きな問題と知ることができるとともに、それに向き合うすごく良い機会を頂いたことを感謝致します。校長先生の「授業」で教育を変えていくという言葉に大変感銘を受けました。私は教師として、そのような信念を自分の中に持ち、努力していきたいと思えます。【5月度】
- とても勉強になりました。感動しました。私もこんな気持ちを持った先生たちと一緒に働きたいと思いました。私自身ももちろん今日感じたことを忘れず、子ども1人1人を大切にできる教師でありたいです。【6月度】
- 校長先生のお話を聞いて、また意欲がわいてきました。私は、自分は教師になりたいのか、自分がなつてよいのか、とても心がゆるむことがあります。自分の基準をつくり、子どもたちと関わっていきたく改めて思えました。いろいろな話がきけてよかったです。【6月度】
- 教職を志す上で「いじめ・不登校」の問題は避けて通れない重要な問題だと思います。机上での勉強でしか把握できていなかった問題について、現場の先生の生のお声を聞くことができ、とても勉強になりました。子どもの心の奥の声に敏感に反応し、よりよい、心に響く言葉をかけることのできる教師になりたいです。【7月度】

「これからも考えていきたい」

- 私は個々のニーズに合わせた教育も大切であるということも思っていたのですが、“集団”の大切さを改めて認識できました。集団の質を高めること、クラスをどう作っていくかを考えていきたいと感じました。【6月度】
- 先生のお話を聞いて、特別な子という視点ではなく、1人1人を良くしたいという思いで子どもを見る視点がとても大切だと感じた。養護教諭として担任や保護者とう協力していくか考えていこうと思った。【6月度】
- 特別支援教育という個別のニーズに対応する、個の指導といったことを考えがちですが、校長先生が「集団づくり」のお話をしてくださって、新しい気付きになりました。また、ディスカッションでは他の人の体験なども聞いて、良かったです。もし自分が担任だったら、もし自分が保護者だったら、もし自分が障害を持っていたら、どうすべきか、どうしてほしいかをよく考えていきたいと思えます。【6月度】
- いじめ・不登校の問題は1人で考えようと思っても難しいなと感じていたので、今日、校長先生の話やグループの人の話を聞くことによって、考えさせられた。気づいたことをもとにして、また自分でもいじめ・不登校についてもっとしっかり考えていきたいと思う。【7月度】

「これからしっかりと勉強したい」

- 校長先生の「授業で子どもを救う。つながる先は教室」というお話がとても心に残っています。子どもを守り、支えとなれるよう、しっかりと学び教師力を身につけていきたいです。【5月度】
- 校長先生のお話を聞いて、また具体的な取組について知らないことを実感しました。コミュニティスクールや共同学習といった取組の復習をするとともに、他校・小学校の取組について勉強します。ありがとうございます。【5月度】
- 今、社会問題ともなっている携帯電話の問題について、いろいろな人の意見をきくことができとてもよかったです。これを機会に自分の意見をより深めていきたいと思えます。もう少しはやい時期からこういった講座をひらいてほしいと思えます。【5月度】

表 2 参加者の状況

	学校教育			養護教諭	教育学研究科		特別専攻 特別支援	卒業生	他学部	合計
	小学校	中学校	障害児		教科教育	発達支援				
5 月度	16 44.4%	5 13.9%	7 19.4%	0 0.0%	3 8.3%	4 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.8%	36
6 月度	48 70.6%	3 4.4%	8 11.8%	4 5.9%	3 4.4%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	1 1.5%	68
7 月度	46 60.5%	15 19.7%	6 7.9%	3 3.9%	3 3.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.6%	76

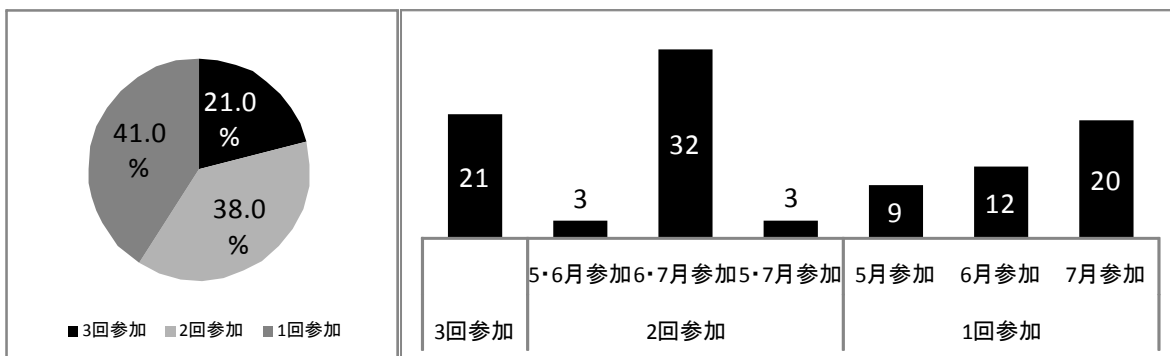


図 2 回数別参加者状況

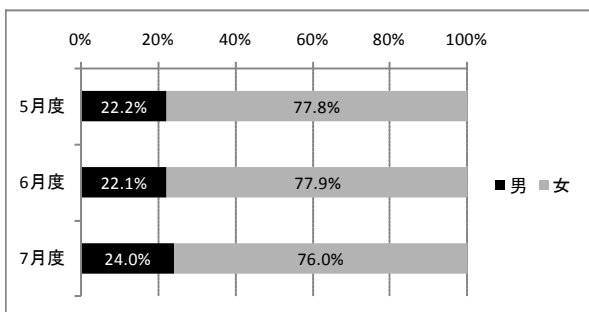


図 3 性別

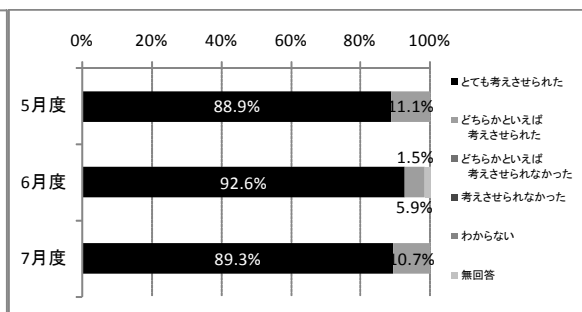


図 4 基調提案について

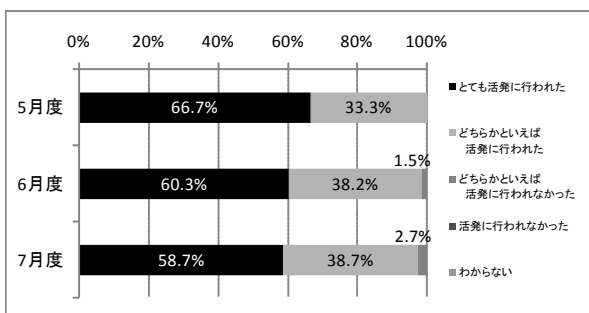


図 5 グループでの議論について

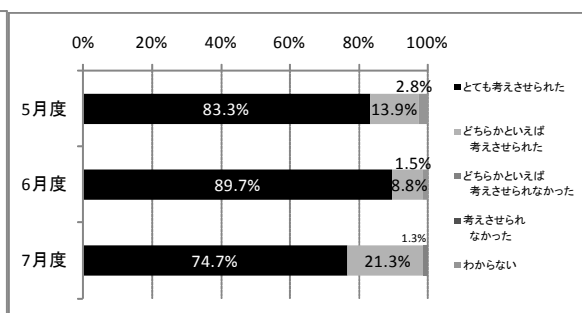


図 6 まとめについて

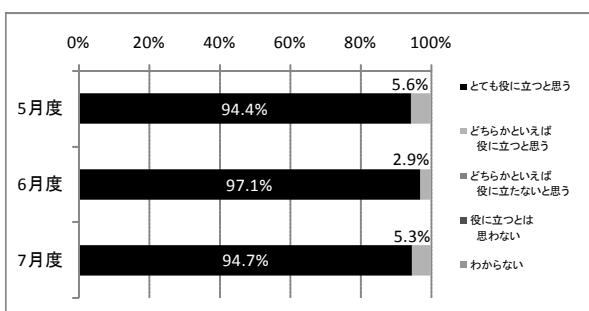


図 7 講座全体について

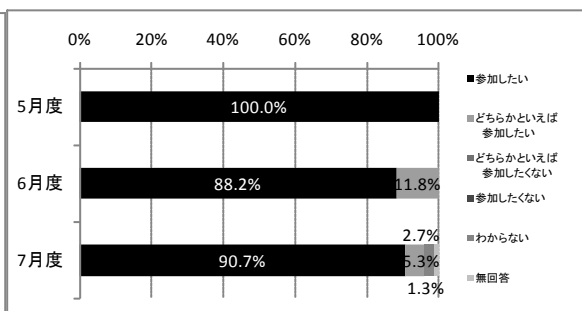


図 8 次の講座について

*注：5 月度の選択肢は、「参加したい」「参加したくない」「わからない」の 3 項目。

- 校長先生の話は実態を踏まえた話で、とてもためになりました。考えさせられることもたくさんあったので、ここで終わりにすることなく、もっと考えを深めていければいいと思います。【5月度】
- 今、とても求められている問題であるので、真剣に考えた。4回生以上であるので集団討論形式になり、それぞれ深い意見が述べられていたので、とてもためになった。私は「つながり」「居場所」づくりを考えていきたいので、今後、考えを深めていきたいと思った。【5月度】

「学校現場の話が聞いて良かった」

- ケータイの問題という、現場に出たらすぐに直面する問題を現場の声を聞きながら皆で考えることができたのでとても有意義な時間だったと思います。今日の講座で考えたことを、今後さらに深めていけたらいいと感じました。ありがとうございました。次回ぜひ参加したいです。【5月度】
- 携帯電話で、学習権について考えたことがなかったため、とても参考になりました。現場の校長先生の話を通じて聞くことができ、ためになりました。教師として「授業」「コミュニケーション(きく力)」「人権」について、さらに考えていきたいです。【5月度】
- 現場の先生の話を知ることがなかなかないので、とても勉強になりました。その話を聞いて討論をしていくというのが、自分たちの考えを深めるのにとっても効果的だったと思います。とても重要なテーマなので、これからは集団討論のテーマに挙げるなどして、話し合っていきたいです。【5月度】
- 校長先生から現場の話を知ることができ、とても勉強になりました。私が子どもの頃は状況がかなり違うので、現代の問題を正しく捕らえ、それに対して根気強く向き合わなければならないと思いました。【5月度】
- 現場の先生のお話を聞けることはとても勉強になりました。またグループで話し合いをする中で人の意見を聞くことは、自分の考えを深めることにつながったので、参加して良かったです。最後の校長先生のお話がとても印象に残りました。【6月度】

「もっと話を聞きたかった」

- 興味があった分野なのでとても参考になりました。もう少し長く先生の講演を聞きたかったです。これから自分なりに学級づくりの信念や教育観についての考えを深めていきたいと思いました。【6月度】
- 本当に感動しました。もっとお話をお聞きしたいです。私は3年生の時にADHDの子どもとインターンシップで出会いました。先生のお話を聞かせて、もっとできることがあったと思います。その時の自分ができることは精一杯したつもりでしたが、本当に力不足で悔しかったです。先生のお話を聞いて、もっと成長したいと思いました。がんばります。本当にありがとうございました。【6月度】
- いじめという現場で最大の問題について話し合えて良かった。自分の考えていることは、他の人が考えていることと同じ点が多かった。しかし、それは逆に言えばみんな思いつく対策・予防法である。そこでうまくいかないから現状は深刻になっている。もっとシミュレーションをして色々考えてみたい。【7月度】
- 予防対策ばかり考えてしまって、起こってしまった時の対応が難しく、もっとお話を聞かせていただきたいと思いました。本当にありがとうございました。【7月度】

「有意義な議論をすることができた」

- 現場の先生からのお話を聴くことができ、改めて携帯電話の根深さと重要性を実感することができた。同じ目標をもったもの同士で討論をすることができ、有意義な時間だった。私とは違った見方もあったので、これからも意見交換をしていきたい。【5月度】
- なかなか直面していても、どう解決すればいいんだろうと思っていたケータイの問題についてですが、グループで討論してみると、いろんなことが見えてきて、とてもおもしろかったです。【5月度】
- 携帯の問題は、今とても大切な課題であるため、そのことについて討論をすることができ、とても勉強になりました。【5月度】
- 現場での実践について、いろいろな話を聞くことができ、とても参考になりました。知識だけではなく、実践について考えることができて、良い話し合いができたと思います。【6月度】
- グループの話し合いで、経験に基づいた話し合いをするのがとてもおもしろいです。県・学校によって様々だと感じます。今日、初めて参加しましたが、本当に良かったです。ありがとうございました。【7月度】

「とても勉強になった」

- 校長先生の実体験をお話いただいて本当に勉強になりました。学生だけでは考えつかないことがわかりました。【6月度】

- 校長先生のお話も、グループの話し合いもとても勉強になりました。集団を育てるということ、学級経営の信念、保護者との関わり、今日のお話ですべてのことが深く心に染みわたりました。採用試験を受ける上で、実際に教師になってからとてもためになるお話でした。【6月度】
- 今日の講座はとても勉強になりました。たくさん考えさせられること、また気付かされることもありました。子どもを個として見て、ニーズに応えることだけではなく、集団力をつけていくことの重要性と効果がよく分かりました。私もそれが実践できるようになりたいです。ありがとうございました。【6月度】
- 自分の経験が足りないと感じました。他の人の経験を聞くことができ、とても参考になりました。1日や2日、1人や2人の大人の関わりでは解決できない問題であること、だからこそ、粘り強く全ての人で支えていくことが大切であるということを感じました。ありがとうございました。【6月度】
- 自分自身が、あまり発達障害の児童と関わったことがなかったため、他の人たちの意見や体験を聞くことができ、とても参考になった。知識だけではいけないとも痛感させられた。【6月度】

「考えが深まった」

- 携帯電話と子どもたちの生活について深く考えさせられました。①授業で勝負する!②「聞く」ことを大切に!この2つは教師となってからも絶対心の中にとめておきたいです!【5月度】
- 私たちがケータイに頼っているながらも、ケータイの問題について考えていかなければならない立場である。だからこそ、ケータイの良い面、悪い面についても見る事ができた。それらを踏まえた上でケータイの問題について考えることができ、非常に参考になった。【5月度】
- 2時間経つのが早かった。とても勉強になりました。校長先生の話を知ることができた上で、自分の関わった発達障害の子どもとの経験の話し合いをしたので、その時の担任の先生の学級経営の方針・信念や、それをどう実行していたか振り返ることができて、自分の経験がより深い学びになりました。【6月度】
- データ・数字から見た時に、改めていじめや不登校が問題であることを認識し、話し合うことにより自分の考えを深めることができました。【7月度】
- 学校で問題となっているいじめや不登校について深めることができてよかったです。経験を振り返るとそれだけで悲しい気持ちになりました。教師として、子ども達がつらい思いをすることがないよう、しっかりと観察し、対応していける早期発見・対応に努めたいです。【7月度】
- 先生の体験談やデータをもとに話し合い、自分が知らなかったことを知って、それに対する考えを深めることができました。【7月度】

さらに、講座を受講した学生に対して個別に感想を求めたところ、数名の学生から次のような感想が寄せられた。これらの感想からも、本講座に対する学生の満足度の高さを伺うことができる。

【学生A】

「教師力を身につけよう」では、教育現場で働いておられる先生の「生の声」を聞くことができるという点が魅力のひとつです。教育学部の学生は、文部科学省等の答申や講義等で、教育現場の問題や教育に関する理論を学ぶことができますが、それだけでは不十分だと感じます。現場を経験している方にしか分からない苦労や生徒の実態を聞いたり、その先生が得た教訓を教えていただいたりすることで、教育現場で起こる問題にどのように対処していけばいいのか、最も大切にすべきことは何かということ、子どもを意識しながら考えることができます。また、教育現場で様々な問題に立ち向かっておられる先生方の姿を知ること、非常に勇気づけられます。

そして、もうひとつの魅力は、仲間と教育についての意見を交換し合うことができるということです。教育学部の学生が、教育についての意見を交し合う機会というのは、少ないと感じます。同じ教師を目指す者として、教師として大切なことを共通理解しておくことや、一人一人の異なる考えから刺激を受け合って、考えを深めることは大切なことであると考えています。また、討論の中で、自分自身が受けてきた教育について話し合うとき、それぞれの県や学校によって違いがあり、それらを知ることができるのが非常に面白いと感じます。

教育現場の問題を知識として知るだけではなく、自分自身で、問題を捉え直し、何が問題なのか、自分だったらどのように取り組むのかを考え、また自分とは異なる考えを持つ仲間と討論し合う中で、考えを深め合っこそ、教師力は身につけていくと感じます。

【学生B】

私が講座「教師力を身につけよう！」に参加して感じたことは三点あります。

第一に、現職の校長先生の講演を聴かせていただき、学校教育が抱える問題点について先生方の考えを聞くことができたことです。日頃、学校が抱える問題について学生同士での話し合いや討論の練習をしていますが、現職の校長先生のお話を聞かせていただく機会はありません。特に、「子どもの生活と携帯の問題について」では、子どもの学習権の視点からお話をさせていただき、学生だけでは決して出てくることがない貴重な視点を示していただきました。

第二に、採用試験のための勉強としてではなく、より長期的な視点から、教師として考えておかなければならない問題に正面から向き合うきっかけとなったことです。今回の講座で取り上げられた問題を通じて、教師として必要な力（学校が直面している切実な問題に対応する対応力や様々な人とのコミュニケーション力など）が身につきました。また、そうした力は試験が終わってしまえば消えてしまうものではなく、教師として生涯、必要となる力であると思います。そうした力をつける、あるいはそうした力の必要に気づくきっかけとなりました。

第三に、日頃のメンバーとは異なる人達とグループを作って討論を行うことができたことです。同じ課題であっても、一人ひとりの考え方は異なり、多様な考え方を取り入れながら、自分の考えを伝える技術や他の人の考えを聞く力を身につけることができました。

講座「教師力を身につけよう！」では、上記の三点に加えて、自身の教育信念でもある、「子どもをトコトン愛し、好きになること」の重要性と難しさを再認識しました。そして、その信念を通すためには、子どもたちが置かれている状況に寄り添い、子どもを理解しようと思ひ続け、学校が抱える問題と向き合う必要があることを感じました。

教育は人なり。子どもも教師も同じ人間ならば、一人の人間として尊重することのできる関係を築くことのできる教師として、教壇に立ちたいと思います。

(6) 今後の講座で取り上げてほしいテーマ

「今後の講座で取り上げてほしいテーマ」についての自由記述から、現在、学生たちが関心を持っている教育的課題を「教師の職務に関すること」「授業に関すること」「生徒指導に関すること」「子どもの成長に関すること」の4つに分類した。

V. 講座の成果と課題

講座に対する学生たちのアンケート結果の分析を仮説に照らして、本講座の成果を次のように考えている。

<仮説Ⅰ>

現場の校長先生から、直面している教育問題と現状、現在の取り組みの実態について基調提案をしていただき・・・

- ① 普段接することが少ない校長先生による講演は、学生にとって新鮮であり、現場の「生（なま）の声」を聞く貴重な機会となった。
- ② 校長先生の熱い思いや体験を聞くことにより、学生の教職への意欲が高まった。

<仮説Ⅱ>

・・・学生同士でそのことを受け止め、討論を重ねると、課題の本質をつかむとともに、・・・

- ③ 学生同士で議論を重ねることによって、新鮮な現場感覚に触れ強烈な刺激となり、多様な見方や考え方を身につけることができた。
- ④ 教育問題を自らの教育実習やボランティアでの体験と結びつけて考えることができた。また自分が体験していないことであっても、友人の体験を聞くことにより、擬似的な体験として考えを広げることができた。

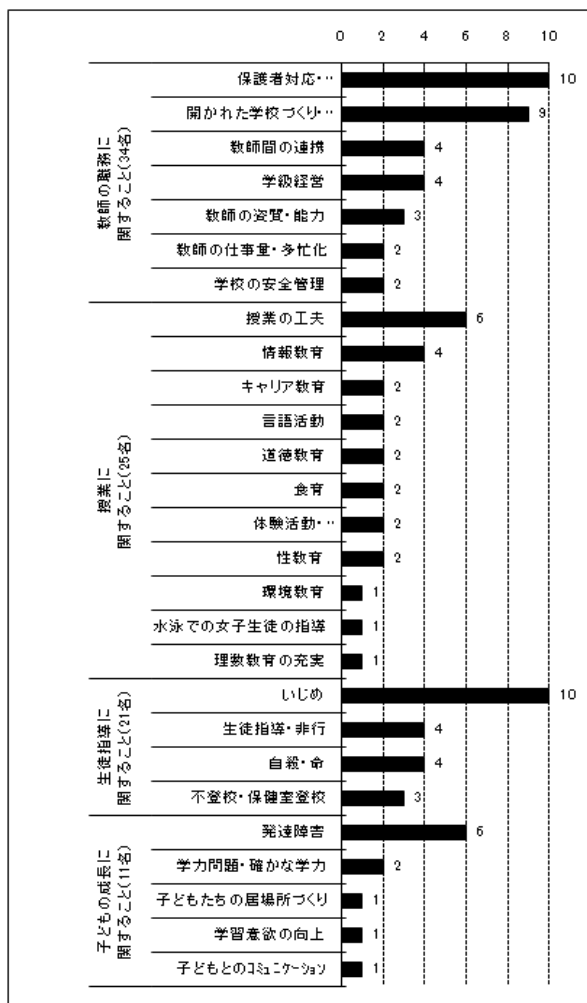
<仮説Ⅲ>

・・・教師としてのあるべき姿、対応すべき教師のあり方について意識改革をしていくことができ、「教師力」の育成に役立つ。

- ⑤ 議論後の「まとめ」において、大学教員や講師の先生から適切な指導・助言を受けることにより、学生間での議論だけでは到達できない見方や考え方について、気づくことができた。
 - ⑥ 講座で考えたことを受けて、さらに学ぼうとする意欲が生まれた。
 - ⑦ 講座への参加を通して、学生自身が現場で対応する力（教師力）が身につけてきたと実感することができた。
- また課題として、以下の2点がある。

① 受講者数の問題

当初は、約60名を収容することができる本センター



【図10】今後の講座で取り上げてほしいテーマ

の会議室において講座を実施していたが、予想を上回る希望者が集まったため、別会場を用意せざるを得なかった。また参加者が増えることによって、グループの移動や意見発表に時間がかかり、スケジュールが遅れてしまうこともあった。希望者多数の場合には、複数回に分けて実施することなども検討する必要がある。

②通常の講義等との兼ね合い

これまでの講座は、教育学部での授業が少ない水曜日の午前に設定してきた。しかし、実技を伴う授業や図書館司書講座などを履修している学生が受講できないという問題があった。また今後、実施が予定されている「教職実践演習」にどのように関連づけていくかということについても考えていかなければならない。

VI. おわりに

教師力育成講座を立ち上げ、学生たちに小・中学校の校長先生から現場の課題について話していただいた。学生たちは、この講座を待ちに待っていたという反応を示してくれ、リピーターも増加の一途であった。

これも突然の依頼にもかかわらず快諾してくれた校長先生の前向きなご講演のおかげである。

また、この取り組みのために学長裁量経費の認可をいただいたこと、教育実践総合センター所員全員の協力があったからこそ達成できたものと心から感謝している。

Title:

Development of “A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers,” a Program to Bring on Teachers with a High Degree of Specialization and Practical Leadership - Towards the Building of a Program for Undergraduate Education

Yasumichi MATSUBARA, Masafumi YANAGIHARA, Fumio YAMANE, Kiyoshi OGAWA, Mitsuhiro YAMASAKI, Kazuhiko KASAHARA, Katsuhiko KIDA

(Research and Development Center for Educational Practice, Faculty of Education, Okayama University)

Abstract:

Circumstances surrounding today's schools are becoming increasingly harsh, as evidenced by the prevalence of dysfunctional classrooms, teachers who suffer mental illnesses, and excessively demanding students and their parents who complain at every opportunity. Even after passing the teacher employment examinations, students become overwhelmed with the daunting responsibilities of standing at the podium as a teacher, and are made painfully aware of their immature leadership skills. To overcome these problems as much as possible, we have decided to offer a training course to cultivate the abilities required for teachers.

The aims are to have individuals currently serving as elementary and middle school principals propose concrete educational challenges from the perspectives of continuity and change, and to have the participants nurture their “power as teachers” through addressing those challenges. Students of other departments as well as graduate students hoping to become teachers are also encouraged to take part. The friendly competition and camaraderie among students who share the same aspirations and interests will contribute to fostering an even broader and sound power as teachers.

Keywords: abilities required for teachers, practical leadership capabilities, individuals currently serving as school principal, educational challenges
